

ふたりの世界



絵 よっち
文 のべ

ある所にイタズラ好きの



Yちゃんという女の子がいました。



Yちゃんはいつも
鉛筆を片手に町中に
落書きしていました。

そんなある日、Yちゃんは
神様の花瓶に落書きをしてしまい、



罰として何もない白い世界に
閉じ込められてしまいました。

＼ちゃんは



1人ぼっちになってしまった。



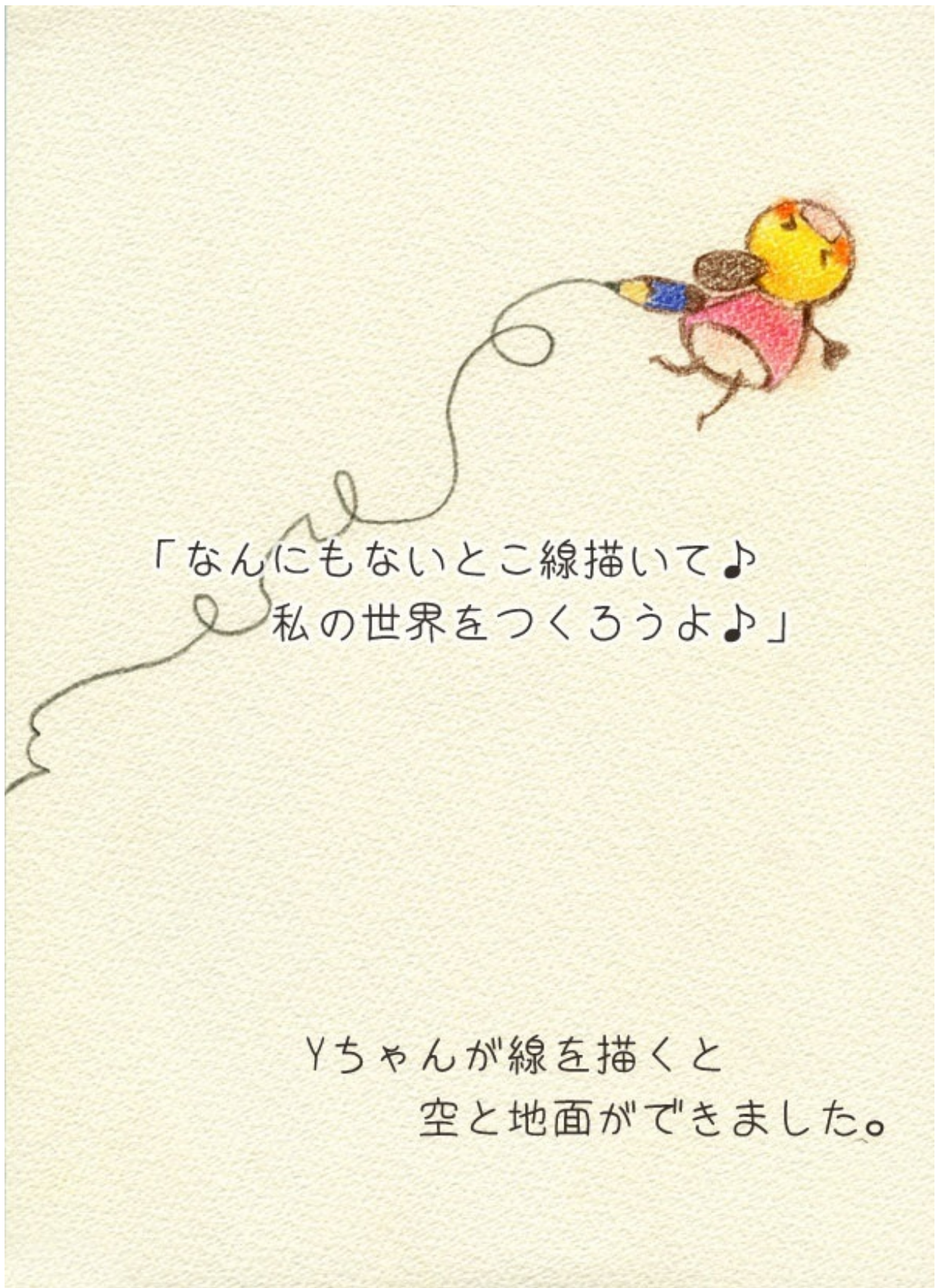
しかしYちゃんは喜びました。



「ここなら誰にも
怒られないで絵が描ける!!」

ポケットから鉛筆を取り出すと
スーと線を描き始めました。





「なんにもないところ描いて♪
私の世界をつくろうよ♪」

Yちゃんが線を描くと
空と地面ができました。

Yちゃんは寝っころがると



たくさんの
タンポポやチューリップ、
様々な草花を描き始めました。

どこまでも広がる白い世界に
Yちゃんは次々と自分の世界を
描いていきました。



「そうだ太陽と月を描かないと!
洗濯物が乾かせないし、
眠ることができないわ」



Yちゃんは空に向けてはしごを描き、
空に太陽と月を描きました。

はしごから降り、
Yちゃんは周りを見渡し、
満足そうな顔をしました。



「さ～て、次は何を描こうかな」

鼻歌交じりで鉛筆を
白い世界に押し当てましたが、




次に何を描いていいのか
Yちゃんは
分からなくなってしまいました。



もう一度Yちゃんは周りを見渡しました。

Yちゃんが描いた世界は
白と黒のあまりにも
さびしい世界でした。



今までは誰かがほめてくれたり、
しかってくれましたが、
この白と黒の世界には
誰もYちゃんに話しかけてくれる人は
いませんでした。

「1人の世界はとてもさびしい。
1人の世界は色がない。私は1人…」





そう歌い描きあげたのは、
ペンキを持った1人の女の子でした。

Yちゃんは悲しくなりました。

どんなに好きなものを描いても、

どんなに自分の世界を作り上げても、

Yちゃんの心は真っ白な世界のままでした。






Yちゃんの中からひとつ、
またひとつと涙が零れ落ちました。

するとどこからともなく
歌が聞こえてきました。

「草の色はやさしい色♪
お花の色は楽しい色♪
お空の色は喜びの色♪」

A watercolor illustration on a textured, light-colored background. In the upper left, a bright red sun with radiating lines is perched on a long, thin ladder that extends diagonally across the sky. Below the ladder, a row of dark, stylized trees stretches across the middle ground. In the lower right, a small girl with a large yellow head and a red dress stands looking up at the sun. The ground is dotted with small white flowers. The overall style is soft and artistic.

歌を聴いたYちゃんは太陽のほうを見ると、
空にかけたはしごに誰かが登って
太陽を赤色に染めていました。

「太陽さんの色は暖かい色♪
私たちの世界はすばらしい」

Yちゃんは立ち上がり走り出しました。



みどり色の草原

あかやきいろの花

うすいみず色の

白い世界に色がついた。

「「楽しい、
かなしい、
やさしい、
さびしい♪」」

「「2人の世界はすばらしい」」

